



発行 徳田教会
(広報委員会)
No. 297
練馬区豊玉中1-39-1
TEL (3991) 2101
FAX (3948) 3228

平和の島

チエジュ 済州島を訪ねて

じよにー・おくら

カトリック新聞六月十七日号に「正平協、韓国・チエジュ島を訪問、海軍基地建设反対に連帯」という記事が載っていました。私はこの訪問団に同行してチエジュ島に行きました。

済州島は韓国で一番大きな島で、人口は約五十五万人、カトリック人口は約六万です。島の中央に世界遺産で、韓国一高い漢拏山（一九五〇米）が聳（そび）えています。済州島は石が多く、風が強く、女性が多いため「三多島」、泥棒と乞食がいなくて、家に表門がないので「三無島」、と呼ばれています。チエジュは韓国で唯一のミカンの産地です。私たちが宿泊し

主 な 内 容

- ・ よろしく 伊藤英樹神学生
- ・ 洗礼おめでとう
- ・ 初聖体おめでとう
- ・ 教会のパイプオルガン

その三

た韓国殉教者宣教会の黙想の家の庭には、大きなミカンの原木があります。これは和歌山県から贈られてきた五本の温州ミカンの原木の一本です。

済州島は、韓国現代史で、日本の支配による戦争の拠点化と、抗日運動、アジア太平洋戦争下での地下要塞化と民衆動員、南北分断と四・三抗争による三万人という虐殺の歴史があります。特にこの四・三抗争での過去の清算という歴史的体験を経るなかで、現在では「平和の島」として宣言されています。

私たちは済州抗日記念館、旧日本海軍済州島飛行場跡（アルトゥル飛行場）、海岸の崖に掘られた特攻艇「震洋」の壕、カマオルムと呼ばれる旧日本軍地下要塞、戦争歴史博物館等を見学しました。そのあと民間人虐殺と済州民衆の生き方

を記憶し追念するための平和・人権公園である「済州四・三平和公園」に行きました。最後に五百人が集団虐殺された地の北村里四・三記念館を訪れ、幼い犠牲者の墓前で祈りました。

済州島四・三事件とは、一九四八年四月三日に、在韓米陸軍の支配下にあった済州島で起こった島民の蜂起に対して、在韓米軍、韓国軍、韓国警察、朝鮮半島本土から来た右翼青年団などが引き起こした一連の島民虐殺事件のことです。一九五四年までには三万人の島民が殺害されました。その中に子ども、病人、老人たちが一割もいました。

済州は昔から流刑地だったこと、また沖縄と同じように、長い間朝鮮本土から差別され、抑圧の状況に置かれていました。長年「反共」を国是に掲げてきた韓国では、責任の追及が公的になされていませんでした。四・三事件を語ることがタブー視され、事件の真相は闇の中でした。二十一世紀になって盧武鉉大統領は、自国の歴史清算事業を進め、二〇〇六年四月三日の犠牲者慰霊祭に大統領として

初めて出席し、島民に対して正式に謝罪するとともに、事件の真相解明を宣言しました。二〇〇八年二月に四・三事件六十周年を記念して済州平和公園と平和記念館が完成しました。今ここを訪れて平和と人権学習を行う人たちが年々増えています。

チェジュの司教館で姜禹^{カンウ}一司教から韓国カトリック教会が、海軍基地建設問題に取り組んできた経緯について講話を聞きました。大変長い話なので、ここに記載出来ません。代わりに同じ内容に近いソウルウリ神学研究所での講演の一部を引用します。

「私は済州教区の司教として、二〇〇七年以来カンジョンの海軍基地建設に反対の立場を表明してきました。当初は教会の司教が、政府の推進する計画に公式に反対するために、自らの意思を述べることはふさわしいことなのか随分悩みました。私は、もし教会が進み出ないのならば、ないがしろにされた弱い人々の小さな声は、聞いてもらえないまま忘れ去られてしまうと強く感じました。そのた

め、私は教区の司祭たちと歩調を合わせ、この問題を世論に訴え始めたのです。

海軍基地建設に反対せずにいられない重要な理由は、済州島の人々が近年堪え忍ばれた抑圧と痛みのためです。(四・三事件のこと)そして今、韓国政府は再びこの済州島に軍隊を送ろうとしているのです。市民を無差別虐殺した犯人たちに対する公正な処罰は一切されることがない状況で、国策という名の下、軍事基地を造るために住民の土地が力ずくで収奪されようとしています。

イエス・キリストに従う者は、生きて



路上でのミサ

いる具体的な世界のただ中で、神が語られる教えと掟を聴いて実行する人間でなければならぬのです。

アジア大陸は多くの貧しい人々が不安と失望、苦悩に傷つけられています。国際社会の不正な構造と抑圧のために、たくさんの人々が泣きうめいているのです。だからこそ私たちは済州島で、この最も小さな村カンジョンの平和を求めて叫んでいるのです。なぜなら、私たちがこの小さな村で平和を守ることができないならば、アジアの平和を守ることでもできないということになるからです。」(「済州島カンジョン村に始まるアジア平和」より)

姜司教の声にこたえて「チェジュ平和の島実現のためのカトリック連帯」が韓国の三五〇〇名の司祭・修道者で結成され、基地反対運動が行われています。実践的な行動として、チェジュ教区司祭と他の韓国十四教区の司祭たちによつて毎日路上ミサが捧げられています。反対・支援運動はカトリックから始まり、今年の春頃から韓国内の諸宗教や市民運動に

及び、さらに国際的な支援運動へと大きく広がっています。

訪問の目的の一つは、カンジョン村の海軍基地建設現場前で行われているミサに、谷司教と共に参加し祈りを捧げることでした。

路上ミサが行われる所はチュエジュの「絶対保全地域」に指定されているクロンビ岩〔玄武岩〕の上に作られる空母のための基地現場前です。更に民間用の港と合体させ「民軍複合港」という形で、二隻の十五万トン級のクルーズ船が停泊できる施設の工事現場前です。

ミサ中に司祭たちが門前で座り込みを続け生コン車が工事現場に入ることを阻止しています。ミサが終っても、さらにロザリオの祈りが唱えられ約二時間は工事がストップするのです。

私たちが参加した路上ミサの終わりに文正鉉神父は次のように語った。

「政府はこの海軍基地建設問題が海外に知られることを恐れている。今年四月、沖繩の平和運動家の三人が入国を阻止され、追放された。この私は継続的に裁判

を受けていて、六月に判決が下される予定である。

私たちは嘘つき、商売人に囲まれている。国防省、海軍、サムスン物産、テリム（この二社は建設施工のゼネコン）、裁判官、検事、警察官、みんな、みんな嘘つきだ。独裁政権時代、共産主義者という濡れ衣を着せられ、投獄された人々が三十三年たって大法院（最高裁）から無罪の判決が出た例がある。

あつてはならないウソがまかり通っている。そのウソをあばかなければならない。度重なるウソによって、村人や平和運動家の罰金は莫大な額に達している。ここから二十メートル中に入っただけで、二〇〇万ウォンの罰金が課せられるのだ。村を守るために、真の平和を求めて活動すると、刑務所に行くことになる。

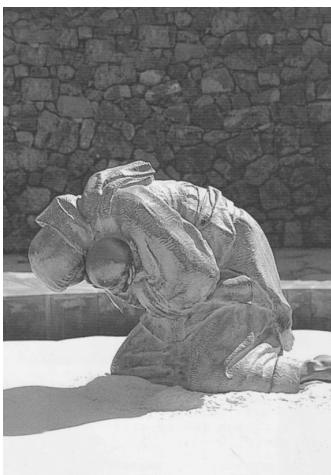
ごく最近、生コン車の工事現場侵入を阻止しようとして八時間も車にしがみついていた人が排気ガスを多量に吸い込んで、救急入院し、重体になった。真実を明らかにするために身を投じる人々の抵抗活動こそが、大幅に工事進行を遅らせ

る力となっている。

皆さんがカンジョンを頻繁に訪ねてくることが、また工事現場の前で、路上でミサを捧げ続けることが基地建設阻止につながっていく」（後藤正史神父訳）

メッセージの最後に、文神父の大きな叫び声が付近一帯に響きました。「クロンビヤ サランヘ（クロンビよ、愛してよ）」と叫ぶ神父の腹の底からの声を、ミサを共に捧げた司祭、信徒たちがこだまのように答えました。これが三度、繰り返されて、信徒たちはそれぞれが派遣されて行きました。私たちも連帯して「クロンビヤ サランヘ」と叫び続けました。

今日もカンジョンの工事現場で賛美歌と共にミサが捧げられています。



平和公園の母子像